

体操、座学、畑作業を組合せた学習プログラムの概要と 知的障がいのある青年の行動変化及び生涯学習法としての活用可能性について

○前川 哲弥（NPO法人ユメソダテ 理事長/株式会社夢育て 代表取締役）
外山 純（NPO法人ユメソダテ 理事/よむかくはじく有限責任事業組合 代表）

1 夢育て農園“人を育てる畑”の学習プログラム

(1) 知的障害者の認知的成長から行動変化へ

2023年11月に夢育てが発表した2論文^{1) 2)}は知的障害があっても成人していても、環境を整えやり方を工夫することで、認知的に成長できることを定量的に示した。夢育て農園はワフアワード2023チャレンジ賞を受賞し、知的障害のある成人の成長可能性が関心を集めつつある。

知的障害者の主な居場所である家庭、特別支援教育、障害福祉サービス事業所及び障害者雇用企業の方々（以下「メイン・プレイヤー」という。）にとって、認知的成長は良いことだが、ゴールではない。彼らは、当事者が認知的成長を通じて心理的に落ちついたり、行動が変化することを通じて社会参加の前進を求めている。そこで本稿では我々のプログラムを概説し、受講生の行動変化をお伝えし、社会参加の前進に至る道筋に仮説をお示しし、方法の導入について提案する。

(2) 人を育てる畑コースのプログラム

夢育て農園の人を育てる畑コースは週1回木曜午後2時前半、以下の表1のようなプログラムを実施している。

表1 人を育てる畑プログラム 週1回木曜午後開催

13:30-13:05	はじめの会（スケジュール確認）
13:35-13:55	体操（ブレインジム等）
13:55-14:45	座学（フォア・シュタイン等）
14:45-15:00	夢ノートを使った夢語り
15:00-16:00	畑作業

ア 体操（国際教育財団ジョー財団ブレインジム等）

知的障害者には身体の使い方が不器用な人が多い。農作業でも、姿勢保持、巧緻性、手と目の協応などに問題がある。そこでブレインジムや夢育ての天田武志先生が独自に考案された体操を毎回20分程行っている。これによって足の筋力や柔軟性、姿勢の安定性や体のバランスが向上し、ほとんどの受講生が安定してしゃがめるようになり、できる農作業が増えている。また壁に沿って真っすぐ1分立つ壁立ちも実施し、1年3か月かけて壁立ちできるようになった受講生は、同時期に座学学習も大きく前進した。身体発達は認知発達の重要な基礎をなしているとの強い心証をもった³⁾。

イ 座学（フォア・シュタイン教材等）

夢育て農園開園～昨年の職人認知発達論文²⁾のアセスメントを実施した2023年夏までの間は、座学ではフォア・シュタインの「点群の組織化」のみを実施し一定の成果を上げた。その後新たに、目に見えないので知的障害のある人たちにとって難

しい最初の関係概念としての前後左右（空間定位1）をクラス全体で学んだ。また、①個々のアセスメント結果に応じて2つの絵や図や言葉を比べ、共通点と相違点を言葉で表現したり、上位概念を使って表現する「比較」課題に取り組むグループと、②主に図形を対象に、全体を部分に分解し、部分を合わせて全体を構成する「分析的知覚」を学ぶグループに分け、学びに努めた。毎回50分程度いずれも教科学習以前の「考える方法」を学ぶもので、成果としての認知発達の状況は、本職人に別様論文にて発表する「体操、座学、畑作業を組合せた学習プログラムが知的障がいのある青年の認知発達に与える影響についての継続的な研究」を参照願いたい。なおニコソ⁴⁾を用いて買い物ができるようになり自立に向けて踏み出す受講生もいる。

ウ 夢語り

知的障害者の就労訓練の場では「指示に従える人を育てる」ことに主眼が置かれがちで、自我の目覚めが遅い彼らの発達のタイミングとミスマッチが起り易い。私たちは発達のスピードを促進することはできても、その順序を変えることは難しいと考えている。そのため、むしろ自らの思いを表出する機会を積極的に増やし、大人との対話の機会を増やすことで主体性を育てたいと考え、毎回15分程度夢語りの時間を設けている（夢育て活動）。例えば2023年3月に「仮面ライダーになりたい」と言っていた20代の受講生は、10月には「仮面ライダーのように悪い奴をやっつけたい」と比喩表現となる等、夢は現実的かつ具体的になっていき、今は水泳やダンスやピアノや旅行など誰もが素敵だと思う夢や希望を語るようになった。我々が2021年第29回職人論文で述べたことを証明してくれた⁶⁾と考えている。

エ 畑作業

畑では、屈伸、草刈り、播種、肥料まき、鍬振り～畝たて、収穫、袋詰め、言葉や絵の記述から作物をあてるクイズ、野菜の生育状況を確認しながら時間による変化を時系列で比較する畑ツアー、畑で点群等を実施している。受講生のストレスを下げ心身を活性化する畑作業¹⁾は、触覚・味覚・嗅覚・固有受容覚等五感をフルに動員することから、抽象性が極めて低く、複雑性については単純なものから複雑なものまでバリエーションが豊かで、知的障害者にとっては理想的な認知教材である。体操を通じた姿勢保持や巧緻性、手と目の協応への努力とも関連が深く、比較や空間定位等の座学での学習とも関連が深いことから、大きな相乗効果を得ることができている。

2 受講生の行動変化

ア 行動変化に関するアンケート結果

2023年8月ご家族と本人と三者面談を行った際ほぼ全家族が受講生の行動変化に気づいておらず、認知的成長結果に驚いていた。認知テストから約1年となる2024年7月、受講生家族を対象に「受講生の行動変化についてのアンケート」を実施した。表2に示す9項目の質問のうち後半6項目はフォyer・シュタインのサブゴールに対応している。入学時と現在の状況を1～5点で評価して貰い、結果を入学時と2024年7月時点の評価を「入学」「現在」として%換算し上昇幅を示した。また評価が「上昇」「横這い」「下降」した人数が8名に占める%も示した。受講生の平均在籍期間は15.5か月である。

表2 受講生の行動変化に関するアンケート結果

	入学	現在	差	上昇	横這	下降
1 家事参加	38%	56%	19%	63%	38%	0%
2 作業仕事参加	47%	59%	13%	38%	63%	0%
3 趣味余暇参加	53%	69%	16%	63%	38%	0%
4 挑戦行動	41%	50%	9%	38%	63%	0%
5 模倣行動	41%	47%	6%	25%	75%	0%
6 好奇心	44%	59%	16%	63%	25%	13%
7 反省行動	31%	34%	3%	25%	63%	13%
8 自己表現行動	34%	47%	13%	63%	25%	13%
9 分ち合い行動	47%	56%	9%	38%	63%	0%
計	42%	53%	11%	46%	50%	4%

総合評価は42%から53%と11ポイント上っており、8名全員が合計評価を上げた。昨夏感じていなかった行動変化を、家族が感じていることが分かる。

特に10ポイント以上上昇した項目は「1 家事参加」「3 余暇参加」「6 好奇心」「8 自己表現行動」「2 作業仕事参加」の5項目であり、認知機能の上昇が行動変化に表れ易い項目と思われる。次に10ポイント近く評価の上がった項目は「4 挑戦」と「9 分ち合い行動」であった。最も評価上昇が少なかった項目は「7 反省」と「5 模倣」で、特に反省行動の上昇は僅かだった。これら2行動が変化するには、更なる成長が必要な比較的高度な行動であると考えている。好奇心や自己表現は早く改善するが、反省や模倣には大きな認知的成長を要すると覚悟して頂くのがよさそうである。

最も評価上昇の大きかった家事参加は、利他性の高い項目でもあり、夢育てでは重視している。具体的に受講生が新たに参加した家事は、洗濯と片付けが最も多く、次に掃除、買い物、ゴミ出しと続いた。

イ 認知的成長と行動変化の関係仮説

このように認知的成長が先に表れ、行動変化が後に表れたが、メインストリーム・プレイヤーが求めている社会参加の質の充実に至る道筋について、図1に示すように一つの仮説を提案したい。知的障害のある人たちは、まず認知的に成長し、これを通じて不安が減る等心理的成長が生れ、これらが積み重なって行動変化が生じ、豊かな人間関係とあいまって

社会参加が質量ともに増えていくという仮説である。認知的成長にも何段階かがあり、不安の減少の後に柔軟性が増し、更に成長すると反省的自己を手に入れるものと思われる。今後、検証していきたい。

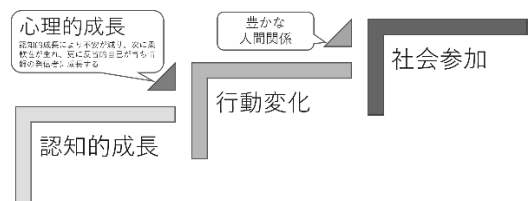


図1 認知的成長、心理的成長、行動変化、社会参加関係図

3 学校、福祉、企業への応用可能性

知的障害者が特別支援学校卒業後も認知的成長を続けることができるとしても、メインストリーム・プレイヤーがこの努力に参加しなくては、知的障害者を巡る社会状況を変えることはできない（18歳の壁問題）。夢育てではフォyer・シュタイン理論とその14教材について私たちのノウハウを公開している⁷⁾。特に家族や、学校の先生や、福祉事業所の支援員や障害者雇用企業の方に学んで頂きたい。

また、その組織にあった方法をオーダーメイドすることで、それぞれの組織に適した方法を創っていきたい。例えば4プログラムのうちできるものから順序を決めて導入したり、週1回2.5hではなく週5回30分といったアレンジを設計したり、農作業ができない事業所には既存の仕事への活用も検討できると考えている。関心を持って下さる組織とご一緒に、是非、成長の喜びが当たり前にある社会を創っていきたく、関心のある組織からのご連絡を歓迎している。

【参考文献】

- 1) 前川、千葉、岡元、吉廣『畑作業と体操、座学を通じた学習が、知的障がいのある青年のストレスや心身の状態に対する影響について』高障求機構第31回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集(2023), p. 60-61
- 2) 外山、前川『畑作業と体操、座学を通じた学習が、知的障がいのある青年の認知発達に与える影響について』高障求機構第31回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集(2023), p. 62-63
- 3) 天田武志『学びへの扉 えてゆけ』Vp1. 44(2024年5月), p. 1 NPO法人日本教育キネシオロジー協会発行
- 4) 日本基金/ワクマガジン#78 <https://noufuku.jp/magazine/post-20230913/>
- 5) <https://yume-sodate.com/action/niconicoin/> GoodDesin賞 2023受賞
- 6) 前川哲弥『夢を育て認知機能の伸びしろを評価・共有することを通じて、知的障害者の主体性を育て、積極的な職場文化を作る試み』高障求機構第29回職業リハビリテーション研究・実践発表会発表論文集(2021), p. 54-55において「彼らの夢が生まれ変わらないのは、人間関係が貧しいからであって、知的能力の問題ではない」と述べている。
- 7) 株式会社夢育ては、2024年7月29日にFeuerstein Institute(イェル)の公認トレーニング・センターとなった(<https://yume-sodate.com/news/2664/>参照)

【連絡先】

株式会社夢育て、NPO法人ユメソダテ
前川哲弥 maekawa@yume-sodate.com
外山純 toyama@yume-sodate.com